



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No. 3

令和6年 4月19日

文責：校長 齋藤和彦

「学校がすき！」と言ってほしい

「やった～！学校休みだあ！」
私も子どもの頃は、こうでした。

その私が言うのも何ですが、この立場になった今は、「学校がすき」と言ってほしい。

好きな理由は、もちろんそれぞれでいい。「給食がおいしいから」「休み時間が楽しみだから」「友だちがおもしろいから」等々。

担任をしていると、その願いに欲がでて、「学級がほっとするから」「担任の先生がすきだから」等と言われてみたくなってくる。

そして、『明日の授業が楽しみだから、早く明日にならないかなあ』なんて言わせてみたくなる。～私の『あこがれ』です。

薫小学校は、これができる学校だと思えます。それができる先生方の日々の努力があるからです。それぞれ互いの苦労や悩みを分かり合える職員風土があるからです。

そして、学校を応援してくれる保護者や地域の方々の確かな基盤があるからです。

子どもを成長させるチャンス

進級して、新しい学年、仲間に慣れようと日々がんばってきた、この2週間。

担任の先生も同じです。学級の子どもの名前を3日ほどで覚えて、朝の会では子ども30人の顔を見ながら名前を呼んで健康観察をしている姿がありました。どの子にも声をかけて、教室からもれる笑い声につられて..私も教室に入りたくなります。

子ども達も先生も“ちょっとしたよい緊張感”の中での新学期2週間が過ぎます。

～ここからは、子どもの学習に向かう姿や友だち関係、また、言葉づかいやふるまいにも“自分好み”が出始めます。(よい面でも好ましくない面にも..)子どもですから当然です。

子どもを成長させるチャンスです。

待ってました！と想定内の構えで、子どもには「正しいこと(正義)」を教えたいものです。ご家庭でも、あたふたと困って、誰かのせいにしたりしないことが大事です。



◆◆ 校長室より ～1年生のがんばりと6年生に..あっぱれ！～ ◆◆

入学式翌日の1年生初登校は、試練の雨風でした。きっと初めて自分の手で傘を支え..風の方向と戦いながら..自分の足で歩いて登校してきた、小さな1年生の姿に「拍手！100点満点！」

また、この姿を玄関先で見送ってくださった..この子の保護者さんに「あっぱれ！120点！」
きっと、心の内は心配で心配で..わが子の姿が見えなくなる曲り角まで、ずっと背伸びして見送ってくれたことと思います。(そして、子どもの力を信じて我慢..)「わかります..その気持ち。」

～ユダヤの諺に こんな教えがあります～

『魚一匹与えれば 一日 もつ
魚の捕り方を教えれば 一生 もつ』

学校もこのような力を養う教育をめざします。

多少の苦手や困難にも負けずに、自分の力で(ときに仲間と協力して)生きていくための力です。

風雨の厳しかったこの日の朝。昇降口では、6年生ががんばった1年生を待っていました。

傘の始末をやさしく教え(クルクル..パッチンして傘立てへ)。教室ではランドセルや学習用具の整理の仕方をていねいに教えています。～でも、“何でもかんでも..チャホヤ”ではありません。

...何か持ってくる物を忘れた子に、6年生は先生に代わりに言ってあげるなんてことはしませんでした。

担任のところに連れて行って、『〇〇持ってくるのを忘れたから明日もってきます』隣で一緒に先生に言えるかどうか聞き届けていたのです。～やさしくもあり..その子の今後を強くしてあげるふるまい(6年生の判断)に、あっぱれ！です。※こんなふうにしてほしい..私の思いとピッタリでした。

きっと、6年生の先生方から“お手伝い範囲基準”共通の線引きがあったことと思われます。

☆さすがです！☆6年生の先生方の教え！そして、☆6年生の行動判断！ お見事です！！

6年生の皆さんも、5年前には、こうしてお兄さんお姉さんに手伝ってもらったのでしょう。

きっと、この1年生も6年生になったら同じように..そして「自分の力でがんばってみて！」と、やさしく励まし..見届けていることでしょう。～いいなあ..薫の子は。(薫の先生も)